

2018年度 社会連携研究プロジェクト活動報告書

2019年 5月 9日

和光大学地域連携研究センター
センター長 小林 猛 久 殿

代表者氏名 高坂康雅

研究プロジェクトの名称							
大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築 (1 年目)							
研究目的							
本プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者(教師、支援者など)、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的とする。							
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)							
高坂康雅	教						

研究活動の経過 (800字以内) (打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。)

2018年4月～2019年3月 適応支援室「いぐお～る」開室(毎週火曜日9:30～15:30)

2018年4月28日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぶらす vol.5」開催

2018年7月21日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぶらす vol.6」開催

2018年10月21日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぶらす vol.7」開催

2019年1月12日(土) 町田市不登校の親の会「いぐぶらす vol.8」開催

2019年1月～(継続中) 不登校の子をもつ親に対するインタビュー調査

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

本プロジェクトの2018年度の主な活動は適応支援室「いぐお～る」の開室と、町田市不登校の親の会「いぐぶらす」の開催であった。

適応支援室「いぐお～る」は2018年度も火曜日に34回開室し、主に町田市在住あるいは町田市内の小中学校に在籍する不登校状態または不登校傾向の児童生徒9名を受け入れた。学生スタッフとの交流を通して、精神的健康や社会性の高まりがみられ、学校に登校する者もみられるようになった。2019年3月には3名の中学3年生が卒業したが、いずれも高校への進学が決定しており、2019年4月より高校に通学している。適応支援室「いぐお～る」は、不登校支援の重要な資源として、町田市のなかでも認知されてきており、現在の活動を継続することが、不登校状態・傾向の児童生徒とその保護者、学校、地域においても求められていると考えられる。今後は、学校や地域との連携の取り方が課題となる。

町田市不登校の親の会「いぐぶらす」は2018年度に4回開催し、不登校状態・傾向の子の保護者やかつて子が不登校状態だった方など延べ100名程度が参加し、交流・情報交換を行った。そのなかで、①子が不登校状態・傾向になると学校や他の子の親との関係、地域などから物理的・精神的・情動的に孤立してしまうこと、②子が不登校であることを受け入れるには、一定期間の葛藤や登校刺激を与える時期を経て、「子どもの人生である」「不登校であってもその後生活していくことができる」などの価値観の転換が生じること、などが明らかになった。町田市不登校の親の会「いぐぶらす」は不登校状態・傾向の子をもつ親・保護者が交流・情報交換ができる貴重な場となっており、今後も継続していくことが必要とされる。一方、そのような親・保護者が求めている情報を適切に伝える場の必要性や、不登校状態の子を受け入れていくプロセスにおける適切な情報提供・支援などについて、さらなる検討が必要となる。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2017年4月～2018年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

- ※ 提出期限=2019年4月26日（金） 提出先=企画室企画係（岡本）
- ※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。
- ※ できるだけこのデータに入力いただき、e-mailで送信してください。
- ※ kikaku@wako.ac.jp（企画係）